

# 環境戦略と指標

## ■ YKK精神

「善の巡環」 他人の利益を凶らずして自らの繁栄はない



企業は社会の重要な構成員であり、共存してこそ存続でき、その利点を分かち合うことにより、社会からその存在価値が認められる。YKK創業者の吉田忠雄は、事業を進めるにあたり、その点について最大の関心を払い、お互いに繁栄する道を考えました。事業活動の中で発明や創意工夫をこらし、常に新しい価値を創造することによって事業の発展を図ることが、お客様、お取引先の繁栄につながり、社会貢献できると考えたのです。このような考え方を「善の巡環」と称し、常に事業活動の基本としてきました。私たちはこの考え方を受け継ぎ、YKK精神としています。

## ■ 経営理念

「更なるCORPORATE VALUEを求めて」



YKKは、更なるCORPORATE VALUE（企業価値）を求めて、  
7つの分野に新たなQUALITY（質）を追求します。

YKKグループが「善の巡環」の精神に基づく経営理念として掲げるのが「更なるCORPORATE VALUEを求めて」です。私たちはお客様に喜ばれ、社会に評価され、社員が誇りと喜びを持って働ける会社でありたいと考えています。そのため的手段として、商品、技術、経営の質を高めていきます。そして、これらを実践するにあたって常に根底にあるのが「公正」であり、これをあらゆる経営活動の基盤としています。

## ■ パーパス

「Architectural Productsで社会を幸せにする会社。」

---

Architectural Products  
社会を幸せにする会社。  
— We Build a Better Society Through Architectural Products —

いつの時代も私たちは、建築文化の根幹にあるArt（美しさ）とTechnology（技術力）にこだわり続けながら、好奇心と探究心により、価値ある建築パーツ「Architectural Products」を生み出し、人と自然、未来をつなぎ、幸せな社会を実現します。

YKK APのパーパスには、私たちの商品やサービスを通して社会に貢献する会社でありたいという想いが込められています。住宅やビルの構成要素である「Architectural Products（建築用工業製品）」で、お客様やお取引先の想いに応え続けること。それによって、お客様やお取引先、そして社会に貢献する会社であり続けること。「YKK AP」という社名に込めた想いを受け継ぎながら、変わりゆく社会の中で必要とされる存在であり続けたいと考えています。

理念について、詳細情報は[こちら](#) →

# 環境戦略と指標

## ■ トップメッセージ

### 世界のリーディングカンパニー実現への道筋が見えてきた

2023年4月の社長就任にあたり、YKK精神「善の巡環」や、YKK APのパーパス「Architectural Productsで社会を幸せにする会社。」のもと、「2030年のありたい姿、あるべき姿」を世界のリーディングカンパニーと定め、その実現をめざすビジョン「Evolution 2030」を策定しました。「地球環境への貢献」「新たな顧客価値の提供」「社員幸福経営」で構成される3つの方針に基づき、「Architectural Productsの進化で、世界のリーディングカンパニーへ」を掲げて経営を進めてきました。初年度を終え、その道筋が徐々に見えてきたと感じています。

私が考える「世界のリーディングカンパニー」とは、窓とカーテンウォールの2つの事業の販売金額でナンバー1になるということです。そのためには、商品や技術にどう付加価値を付けて提供していくかが重要になります。

かねてより手掛けていた木製窓の商品化が実現し、2024年7月に発売開始しました。意匠性も断熱性も高い木製窓は、樹脂窓とともに使用することで住宅のさらなる断熱化をめざすことができ、「新たな顧客価値の提供」の第一歩と捉えています。また、ビル用の高断熱商品となるアルミ樹脂複合窓を2024年度に発売します。この木製窓やビル用窓の高断熱化は、今後の脱炭素・カーボンニュートラルの実現にはとても有効です。

2023年度に視察した欧州では、建築市場がスクラップ&ビルドからCO<sub>2</sub>排出量のより少ない外皮（外壁、屋根や窓など建物の外周部分）のみの改装へとニーズが移っており、そこに新たなビジネス機会があると実感しています。窓をはじめ住宅の増改築やビルの改装向けの高断熱・高付加価値商品などで、欧州にも進出していこうと考えております。

2023年度は、売上高が前年度比5.8%増の5,381億円、営業利益は43.5%増の256億円と、増収増益で終わりました。ただ、第3四半期までは、政府の施策で断熱窓への改修に補助金を出す3省連携補助事業などにより内窓を中心に住宅リフォームやビル改装分野の販売が大幅に伸長したものの、この補助事業が落ち着いた第4四半期に入ると受注が減少し、2023年度の計画には届きませんでした。

これまでYKK APは新築に力を入れてきましたが、国内の住宅、ビルともに新たな建築着工数が減少するなか、成長が見込まれる住宅のリフォームやビルの改装に注力する必要があります。リフォーム・改装市場の活性化に 대응べく、リフォーム商品の生産拠点拡大と増産対応の設備投資を行い、国内3カ所の生産拠頭にラインを新設し、生産力・競争力を強化しております。

「Evolution 2030」の軸の1つ「地球環境への貢献」の面では、脱炭素・循環型社会への対応として当社のさまざまな商品に使用される重要な素材であるアルミについて、安定的な市中リサイクル材の調達スキーム構築やグリーンアルミの利用を検討しています。樹脂のリサイクルにおいては、樹脂窓の製造過程で発生する樹脂端材のリサイクル率を高めており、2024年度までに社内品を100%リサイクルすることを目標に掲げています。また社外品のリサイクル技術や市中からの回収技術を、産官学連携で研究しています。

2024年度以降も、攻めの姿勢で市場を開拓し、「世界のリーディングカンパニー」を目指して挑み続けます。

### <YKK AP環境経営方針>

#### YKK AP環境経営方針

ライフサイクルの全ての段階で環境価値を創出  
～人と自然が共生する未来へ～

YKK APは、次世代に対してより良い社会・環境をつくるために、技術革新による新しい価値の創造、環境負荷ゼロに挑戦します。

- バリューチェーン全体で環境課題解決への貢献と環境負荷低減に取り組みます。
- 環境課題として、気候変動、資源循環、水、生物多様性に取り組みます。
- 多様な人材を基盤とし、未来を見据えて新たな環境価値創出に取り組みます。

YKK AP環境政策委員長  
YKK AP株式会社 代表取締役社長

魚津彰



代表取締役社長 魚津彰

# 環境戦略と指標

## ■ 環境戦略

YKK APはビジョン「Evolution2030」の中で、「地球環境への貢献—脱炭素化・循環型社会実現に向けた仕組みづくり」を方針に掲げました。また、YKK APでは2050年の目指す姿として「事業活動におけるライフサイクル全体を通して“環境負荷ゼロ”を実現」を掲げており、その実現に向けて中期環境政策の中で指標を設定しています。

その指標として、YKKグループ全体で策定した「YKKグループ環境ビジョン2050」に基づき、2021年度～2024年度の中期環境政策では「気候変動」「資源循環」「水」「生物多様性」の4つの環境課題について目標を設定し、達成に向けて取り組んでいます。

### ＜環境への取り組み経緯と2050年の目指す姿＞



画像を拡大する □

## YKKグループ環境ビジョン2050

YKKグループ全体で更に高いレベルの環境経営を実現するため、2019年4月、環境への取り組みの長期的な方向性を示す「YKKグループ環境ビジョン2050」を策定しました。

「気候変動への対応」「資源の活用」「水の持続的利用」「自然との共生」という4つの項目それぞれに対して、2050年の将来予測と目指す姿を踏まえ、YKK APの環境政策における重要課題の抽出、特定と環境行動計画への反映を行っています。



**🌍 気候変動への対応**

地球規模で起こっている気候の変動は、地球上に住むあらゆる生物にとって重要な問題となっています。この問題に対応することは社会の構成員としての責務であると考え、CO<sub>2</sub>をはじめとした温室効果ガスの削減や気候変動への適応に取り組みます。

**💧 水の持続的利用**

水は生命維持やあらゆる産業にとって欠かせない資源である一方、国や地域によって利用できる量や質が大きく変化します。社会との共存共栄を目指すわれわれにとって、地域と共に水資源を持続的に利用することは重要な課題であると考え、取水量の削減や排水の環境負荷低減等に取り組みます。

**🌿 資源の活用**

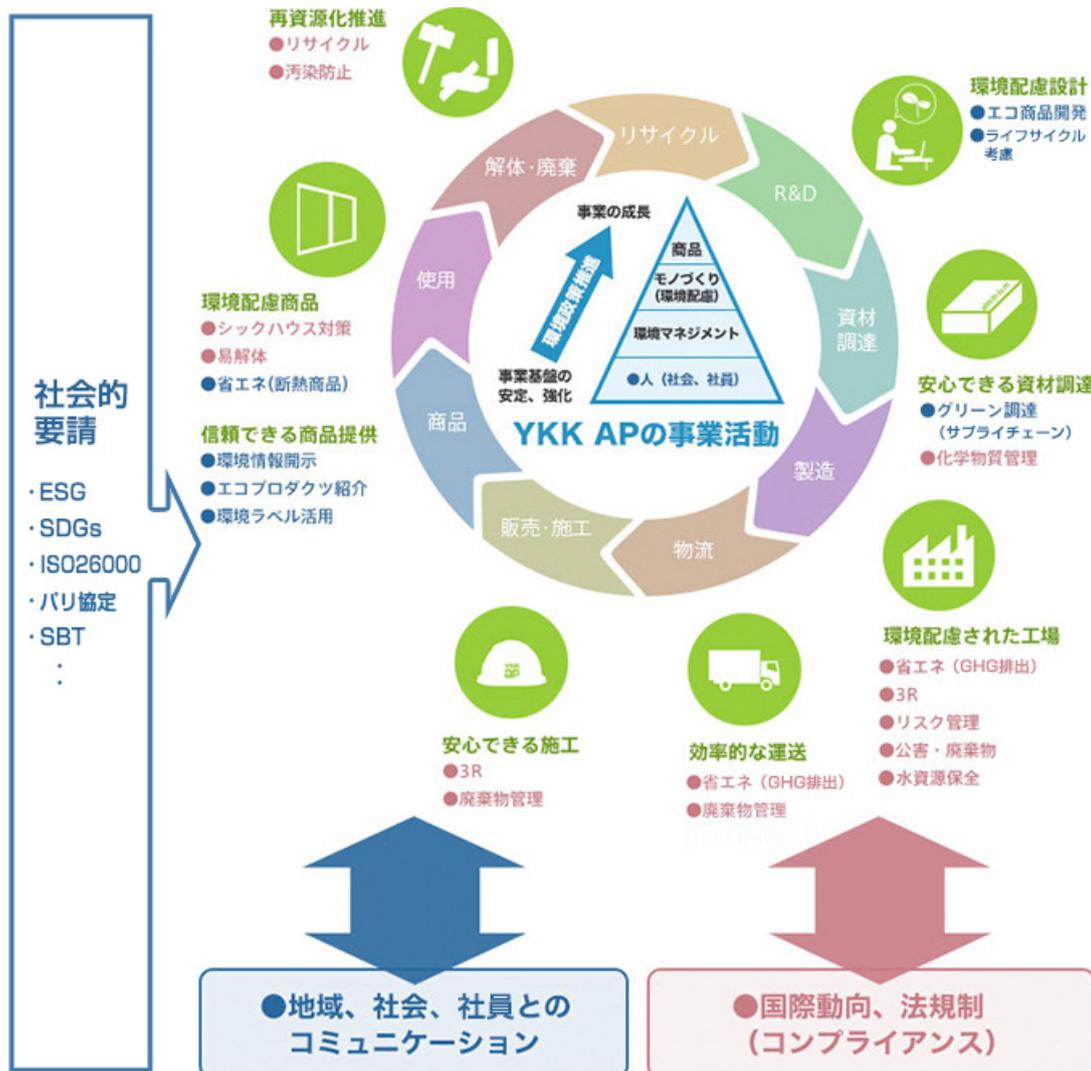
ファスナーや窓をはじめとした商品を作るメーカーとして、その材料となる各種の資源は不可欠な存在です。将来世代にわたり、われわれの商品を安定して提供していくためにも、限りある資源を最大限有効に活用するとともに、ライフサイクルを通じて発生する廃棄物を資源とする活動に取り組みます。

**🌱 自然との共生**

大気安定や水の浄化、食料の提供、レクリエーションの場など、自然は豊かな生活に欠かせない存在です。将来世代にわたり、豊かな生活を残すため、自然保護や環境負荷の低減等に取り組みます。

**YKK APの環境関連のリスク・機会**

YKK APの事業活動に関わる環境関連のリスク（●）と機会（●）を以下のように抽出しました。機会については、社会にとっても自社の成長にとっても良いこと（社会にとってプラスとなる貢献●）なので、さらに伸ばしていくべき課題、リスクについてはその影響をさらに小さくする（地球環境負荷となるものを極力少なくする＝“ゼロ”をめざす●）ことで持続可能な社会に貢献できると考えます。



# 2024年度 YKK AP環境方針、行動計画

YKK APは、環境経営方針を受けて、環境マネジメントシステムを継続的に改善しながら、ライフサイクルの全ての段階で環境価値を創出するとともに、環境負荷ゼロに向けたグローバルな環境負荷低減活動を実践します。

特に、以下の4つの環境課題について、目標を設定し、その達成に向けて行動します。

## 気候変動



温室効果ガス削減に寄与する商品や気候変動対策商品を積極的に開発・販売します。

また、事業活動やバリューチェーンからの温室効果ガス排出ゼロに向けて、効率的なエネルギー使用と再生可能エネルギーの導入を推進します。

## 資源循環



資源投入量を最小化するために、材料の社内外循環利用と包装資材の削減に取り組みます。また、事業活動における廃棄物排出量の最小化に向け、分別の徹底と有価物化を進めます。

## 水



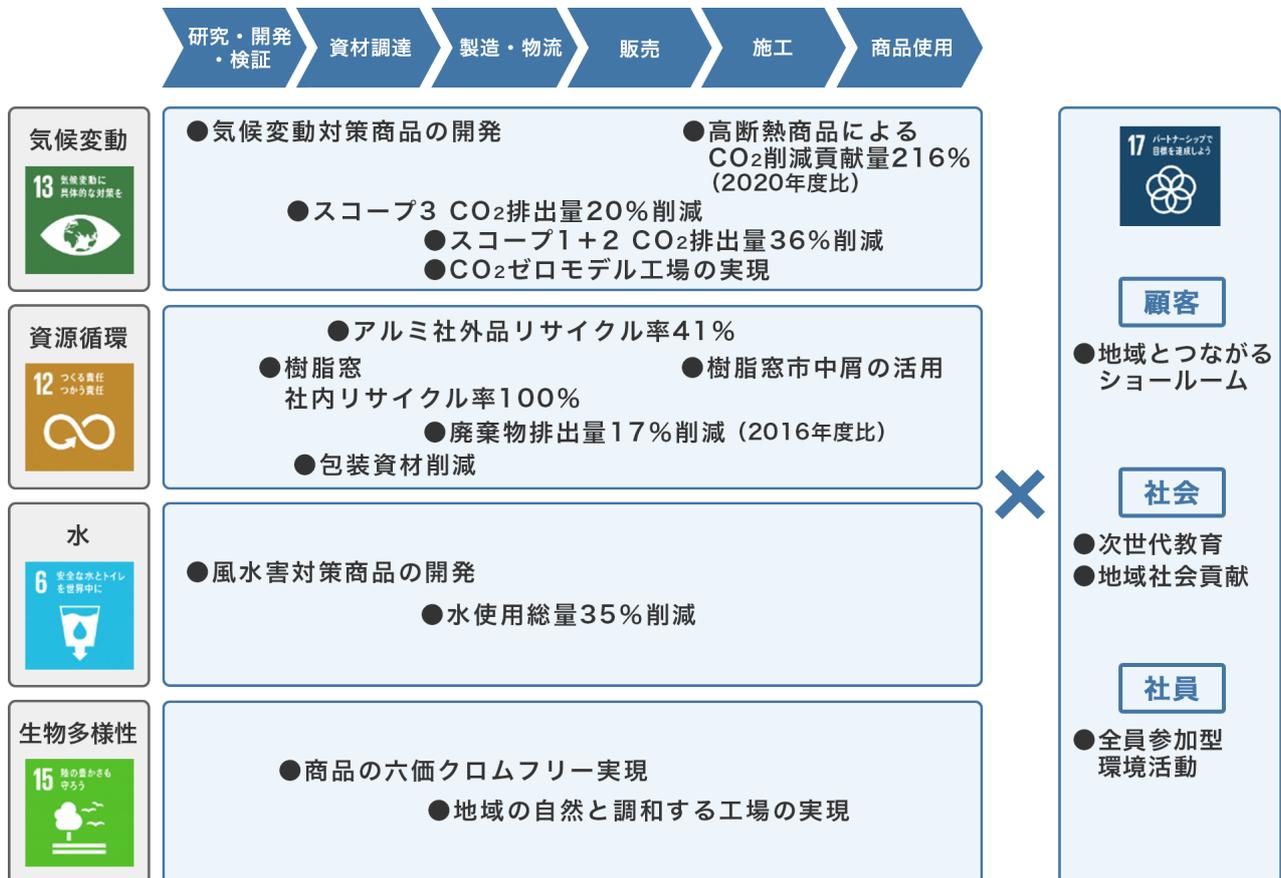
水の持続的利用に向け、事業活動における水の循環利用や排水の環境負荷低減に取り組みます。

## 生物多様性



自然と共生し、地域・社会に貢献する人材の育成と全員参加型環境活動を実践します。

# 2024年度環境目標（2013年度基準）



※2024年度環境目標：最新の計画を反映

# 環境戦略と指標

## ■ 目標と実績

YKK APでは、2050年のあるべき姿と環境経営方針に基づき、中期毎に環境目標を設定しています。

第6次中期環境事業計画（2021年度～2024年度）では、2050年のあるべき姿に向けて、バックカスティングで2030年の目標、さらに2024年度に達成すべき中期到達目標を掲げ、そこから各年度の数値目標とアクションプランを設定し、取り組みを進めています。

## 環境政策の目指す姿と指標

2024年度計画は最新の計画を反映

テーマ	指標	基準年度	対象	2024計画	2030目標	2050年の 目指す姿	
方針	・社会の長期目標：SDGs、カーボンニュートラル、サーキュラーエコノミー ⇒「ライフサイクルの全ての段階で環境価値を創出」					事業活動におけるライフサイクル全体を通して“環境負荷ゼロ”を実現	
環境課題	気候変動 →	CO <sub>2</sub> 排出量 スコープ1+2	2013 年度	YKK APグループ (国内+海外)	275千t-CO <sub>2</sub> 36%削減	86千t-CO <sub>2</sub> 80%削減	商品、モノづくりにおける ライフサイクルCO <sub>2</sub> ゼロ
		CO <sub>2</sub> 排出量 スコープ3	2013 年度	YKK APグループ (国内+海外)	1,499千t- CO <sub>2</sub> 20%削減	1,315千t- CO <sub>2</sub> 30%削減	
	資源循環 →	アルミリサイクル率 ※1	-	YKK APグループ (国内 製造拠点)	41%	100%	再生可能、循環型材料の利 用
		樹脂リサイクル率※2	-	YKK APグループ (国内 製造拠点)	100%	100%	
		廃棄物排出量	2016 年度	YKK APグループ (国内+海外製造 拠点)	17.0千t 17%削減	12.3千t 40%削減	
	水 →	水使用量	2013 年度	YKK APグループ (国内+海外製造 拠点)	8.2百万m <sup>3</sup> 35%削減	8.0百万m <sup>3</sup> 36%削減	水の最大限循環利用

※1 アルミ原材料投入における市中リサイクル材の投入比率

※2 樹脂社内発生端材の社内での再利用率

## 2023年度総括

環境経営方針で掲げる4つの環境課題「気候変動」「資源循環」「水」「生物多様性」で数値目標を掲げ、カーボンニュートラル、サーキュラーエコノミーの実現に向けた取り組みを推進しています。

2023年度は自社CO<sub>2</sub>排出量、水使用量など重点テーマで計画を達成しました。

一方、廃棄物削減については、生産量拡大によるガラス屑が増加し計画までは達しませんでした。

※達成度・・・ ◎：計画以上 ○：計画通り △：一部未達（>90%） ×：未達

テーマ	指標	2023年度			
		計画	実績	達成度	
環境コンプライアンス →	公害・環境問題 <sup>※2</sup>	0件	0件	○	
環境人材 →	環境教育受講率 <sup>※1</sup>	100%	100%	○	
	SDGsアクション参加率 <sup>※1</sup>	98%以上	夏：99%/冬：97%	○	
環境課題	気候変動 →	商品のCO <sub>2</sub> 削減貢献量 <sup>※1</sup>	864千t-CO <sub>2</sub> (2020年度比 185%)	811千t-CO <sub>2</sub> (2020年度比 173%)	△
		自社CO <sub>2</sub> 排出量 <sup>※2</sup>	288千t-CO <sub>2</sub> (2013年度比 ▲33%)	285千t-CO <sub>2</sub> (2013年度比 ▲33%)	○
		エネルギー原単位 <sup>※1</sup>	前年度比 ▲4.5%	前年度比 ▲5.2%	◎
	資源循環 →	廃棄物排出量 <sup>※3</sup>	14.3千t (2016年度比 ▲30%)	17.4千t (2016年度比 ▲15%)	×
		廃棄物原単位 <sup>※3</sup>	2016年度比 ▲47%	2016年度比 ▲35%	×
		廃棄物再資源化率 <sup>※3</sup>	99%	98%	△
	水 →	水使用量 <sup>※3</sup>	8.6百万m <sup>3</sup> (2013年度比 ▲31%)	8.3百万m <sup>3</sup> (2013年度比 ▲34%)	◎
		水原単位 <sup>※3</sup>	2013年度比 ▲49%	2013年度比 ▲51%	◎
	生物多様性 →	社会貢献件数 <sup>※2</sup> →	各拠点 2件以上	153件	○

※1 YKK APグループ（国内）

※2 YKK APグループ（国内+海外）

※3 YKK APグループ（国内+海外製造拠点）

## 2024年度の数値目標とアクションプラン

テーマ	指標	2024年度 環境活動計画		
		計画	アクションプラン	
環境コンプライアンス →	公害・環境問題 <sup>※2</sup>	0件	ISO14001規定類の改訂	
環境人材 →	環境教育受講率 <sup>※1</sup>	100%	次代を担う環境人材の育成と 全員参加の環境活動	
	環境アクション参加率 <sup>※1</sup>	98%以上		
環境課題	気候変動 →	商品のCO <sub>2</sub> 削減貢献量 <sup>※1</sup>	1,012千t-CO <sub>2</sub> (2020年度比 216%)	温室効果ガス削減に寄与する商品の開発・販売
		自社CO <sub>2</sub> 排出量 <sup>※2</sup>	275千t-CO <sub>2</sub> (2013年度比 ▲36%)	カーボンニュートラル技術開発 (省エネ・プロセス転換・創エネ・物流・材料)
	資源循環 →	廃棄物再資源化率 <sup>※3</sup>	99%	RPF製造・破砕機導入による廃棄物の有価物化
		廃棄物排出量 <sup>※3</sup>	17.0千t (2016年度比 ▲17%)	
		廃棄物原単位 <sup>※3</sup>	2016年度比 ▲48%	
	水 →	水使用量 <sup>※3</sup>	8.2百万m <sup>3</sup> (2013年度比 ▲35%)	水の循環利用推進
		水原単位 <sup>※3</sup>	2013年度比 ▲55%	
	生物多様性 →	社会貢献件数 <sup>※2</sup> →	各拠点2件以上	地域・自然と共生する環境保全活動

※1 YKK APグループ (国内)

※2 YKK APグループ (国内+海外)

※3 YKK APグループ (国内+海外製造拠点)

# 環境戦略と指標

## ■ イニシアチブへの賛同・加盟

YKK APでは国際的なイニシアチブに賛同・加盟し、国際基準に基づいた目標・実績管理に取り組んでいます。

 サークュラーパートナーズ	2024年2月
 日本気候リーダーズ・パートナーシップ (JCLP) への加盟	2023年5月
 エコ・ファースト認定を取得 →	2023年4月
 GXリーグへの参画	2023年4月
 循環経済パートナーシップ (J4CE) への参加	2022年10月
 気候変動イニシアティブへの賛同	2022年6月
 国連グローバルコンパクトへの署名	2021年5月
 TCFD (気候関連財務情報開示タスクフォース) の提言への賛同 →	2019年5月
 SBT (Science based Targets) イニシアチブの認定を取得	2019年1月 2021年2月更新

# 環境戦略と指標

## ■ 環境に関する社会的評価

### 黒部越湖製造所が富山県からエコ事業所として認定

富山県が実施する「エコ事業所認定制度」において、2023年度認定事業所として、黒部越湖製造所がエコ事業所として認定を受けました。本制度は、廃棄物の発生抑制、循環利用、環境に配慮した事業活動などに積極的に取り組んでいる事業所を「エコ事業所」として認定するものです。近年、黒部越湖製造所では、固形燃料（RPF）製造設備や太陽光・風力発電の導入など、これまでの取り組みからさらに一段踏み込んで資源循環や創エネに力を入れています。これらの環境に配慮した取り組みを積極的に行っている点が評価され、今回YKK APとして初の認定となりました。



### 省エネ法に基づく「優良事業者（Sクラス）」の評価を9年連続達成

経済産業省資源エネルギー庁が実施するエネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律（省エネ法）に基づく「事業者クラス分け評価制度」（2023年度提出分）において、最高評価の優良事業者（Sクラス）を取得しました。これにより、本制度が創設された2016年度から9年連続でSクラスの評価となりました。

2023年は生産設備の更新や照明のLED化など、省エネ設備への投資を行いました。また、自家消費型太陽光発電設備の導入を行い、2024年3月時点で9,800kWの再生可能エネルギー設備が稼働しています。



# 環境戦略と指標

## ■ 「エコ・ファーストの約束」と進捗状況

YKK APは、2023年4月5日、環境省が環境の分野において「先進的、独自のかつ業界をリードする事業活動」を行っている企業（業界における環境先進企業）であることを認定する「エコ・ファースト企業制度」において、「エコ・ファースト企業」に認定されました。

YKK APは、2050年の目指す姿として「事業活動におけるライフサイクル全体を通して“環境負荷ゼロ”を実現」を掲げています。その実現に向け、ライフサイクルの全ての段階で環境価値を創出するとともに、グローバルな環境負荷低減活動を実践しています。特に、「気候変動」「資源循環」「水」「生物多様性」の4つの環境課題について目標を設定し、その達成に向けた取り組みを推進しており、こうした取り組みを「エコ・ファーストの約束」として宣言しました。

### YKK APの「エコ・ファーストの約束」 [詳細はこちら](#)

- 2050年カーボンニュートラルに向け、事業活動の全工程で温室効果ガス削減や気候変動への適応に取り組む
- 商品のライフサイクルを通じ廃棄物発生を抑制するべく、サーキュラーエコノミーの概念を取り入れ持続可能な資源の利用を進める
- 自然との共生に向け、事業活動に伴う大気への排出物質の抑制・持続的な水利用の実現に取り組む
- 事業活動の中で、生物多様性へプラスとなる取り組みを進めるとともにマイナスとなる影響を可能な限り小さくすることで、持続可能な社会づくりへ貢献する
- さまざまな環境教育や意識啓発を通じ、次代を担う環境人材の育成に取り組む
- 「商品」と「モノづくり」を通じ持続可能な社会づくりに貢献すべく地球環境負荷低減に関わる取り組みに対し、積極的な投資を進める
- トップマネジメントによるグローバルな環境経営の強化に取り組む



エコ・ファースト企業  
環境大臣認定

## 「エコ・ファーストの約束」進捗状況

※ 「エコ・ファーストの約束」に掲げている目標値は認定時に策定したものであり、ここではその進捗を公開しています。  
<達成度> ◎：計画以上 ○：計画通り △：一部未達 (>90%) ×：未達 ー：定性目標のため対象外

約束内容		2023年度計画	2023年度実績	達成度	取り組みの詳細
約束1	家庭・オフィスビル等の民生部門における高断熱窓の普及によるCO <sub>2</sub> 削減貢献量を、2024年度までに2020年度比1.5倍（149%） <sup>※1</sup>	2020年度比 185%	2020年度比 173%	△	気候変動 → TCFDに基づく情報 開示 → 目標と実績 →
	事業活動による自社からのCO <sub>2</sub> 排出量（スコープ1+2）を2030年度までに2013年度比50%削減、温室効果ガス排出量2050年実質ゼロ <sup>※3</sup>	2013年度比 33%削減	2013年度比 33%削減	○	
	サプライチェーンCO <sub>2</sub> 排出量（スコープ3）を2030年度までに2013年度比30%削減 <sup>※3</sup>	2013年度比 10%削減	2013年度比 10%削減	○	

約束2	樹脂窓の製造工程で発生する端材について、 2028年度までに、社内リサイクル率100% 達成 <sup>※2</sup>	2023年度末 51%	2023年度末 45%	△	資源循環 →
	2024年度までに、廃棄物排出量32%削減 <sup>※4</sup>	2016年度比 26%削減	2016年度比 15%削減	×	
	2024年度までに、国内・海外製造拠点のリ サイクル率99%以上達成 <sup>※4</sup>	99%	98%	△	
約束3	水使用量を2024年度までに、 2021年度比24%削減 <sup>※4</sup>	2021年度比 18%削減 (2013年度比 24%削減)	2021年度比 16%削減 (2013年度比 34%削減)	△	水 → 環境負荷情報 →
約束4	2024年度までに、材料、部材、部品の 六価クロムフリー化100%達成 <sup>※1</sup>	—	サプライヤーへのヒア リングの実施 品質試験の実施	—	生物多様性 → 社会貢献活動 →
	国内・海外の全拠点において、環境保全活動 を年間2件以上実施 <sup>※3</sup>	各拠点2件以上	各拠点2件以上 (計153件)	○	
約束5	従業員への環境自覚教育、 全員参加型環境アクション <sup>※1</sup>	環境教育受講率100% 環境アクション参加率 98%	環境教育受講率100% 環境アクション参加率 夏：99%/冬：97%	○	環境人材 →
	子どもたちへの環境教育やボランティア活動 <sup>※3</sup>	—	次世代教育支援 16件	○	社会貢献活動 →
約束6	地球環境負荷低減に関わる取り組みに対する 積極的な投資 <sup>※1</sup>	—	2.967百万円	—	環境管理会計 →
約束7	トップマネジメントによるグローバルな 環境経営の強化 <sup>※3</sup>	公害・環境問題0件	公害・環境問題0件	○	グローバルな環境経 営度向上 →

※1：YKK APグループ（国内）

※2：YKK APグループ（国内製造拠点）

※3：YKK APグループ（国内+海外）

※4：YKK APグループ（国内+海外製造拠点）